2024年02月13日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【日経平均株価が大幅続伸】

本日（2024年2月13日）の東京株式市場で、日経平均株価が大幅続伸した。

前週末比の上げ幅が1000円を超えて、3万8000円台を付ける局面もあった。

終値では、3万8000円台を割り込んだが、高値を更新したことは事実だ。

今までの日経平均株価の史上最高値は、1989年12月29日に記録した3万8915円87銭。

株価が上昇することは、基本的には喜ばしい、と考えます。

ただし、株価ばかりが上昇するだけで、個人の所得が増えないのならば、単なる「インフレ」に過ぎず、喜んでばかりもいられない、とも考えます。

今回の株価の上昇は、第一の要因が「インフレ」にある、と、個人的には考えています。

この「インフレ」は、世界的な「インフレ」が日本にも影響している、と考えます。

そして、外国為替の影響も大きい、と考えます。

円安が進んだ影響で、輸入物価が大きく上昇している訳です。

もちろん、日本国内での「インフレ」も進んでいる、と考えますが、これらの複合的な要因で、日本の「インフレ」が拡大しているのだ、と考えます。

株価の上昇が、企業業績の向上によって起こっており、利益が上がることを要因としているのならば、手放しで喜んで良いのでしょうが、単に「インフレ」を要因として株価が上昇しているのならば、一般の生活は苦しくなるのが必定で、喜んでばかりもいられないことになります。

++

本日（2024年2月13日）のドル／円の外国為替市場を見ると、日経平均株価の上昇を受

けて、円安傾向にある、と考えます。

外国為替市場と日経平均株価は、相互に影響を与えあって、その値動きを加速させたり、減速させたりしますが、本日（2024 年 2 月 13 日）の様子を見ると、日経平均株価の上昇が、外国為替市場での円安を導いた、と考えています。

++

今年（2024 年）に入ってからの日銀の金融政策に、大きな変化が見られずに、大規模な金融緩和策が維持されていることも、日経平均株価を押し上げている要因と考えます。

ただし、日銀の金融政策は、今年の内に（2024 年内に）、大きな変化があることが予想されています。

だから、今の時点では、日経平均株価上昇による円安傾向に従って良いのでしょうが、日銀の金融政策に変更の兆しが見られるようになったら、直ぐに、そのスタンスを切り替える必要があります。

一般論として言うならば、外国為替市場に与える影響力は、各国の金融政策の方が大きいからです。

++
++

（2024 年 02 月 13 日東京時間 16：40 記述）